

「五葉山の魅力」

五葉山自然倶楽部
創立10周年に寄せて

53

卵形の穏やかな面相で端正なお顔、誇張のない肉付きをした頭部、均整ある体躯の洗練された容姿——初めて出会った十一年観音像に私は立ちすくんでしまいました。昭和六十二年の秋、「古寺巡礼」の取材で京都府宇治田原の禅定寺を訪れ本尊を拝顔したときの印象です。

松の寄木造りで、三層もある漆箔造り。吸い寄せられるようにじっと佇んでいると、内から湧き上がるものがありました。「このような素晴らしい仏像が彫れたらいいな」という思いです。初めて仏像を意識し、知覚し、揺り動かされる思いをもって対面したので

をもちいて対面したので

NHK教育テレビで江里仏師が指導する釈迦誕生仏の彫刻が放映されて

おり、この番組に見入りながら初めて彫刻刀を持ちました。それ以来、仏縁があつて京仏師・松久宗林先生の指導で、地藏菩薩、観音菩薩、釈迦如来と何体か彫って参りました。

「仏を彫るということ」は、木肌の薄皮一枚一枚を剥いでゆき、これ以上刀を入れたら、仏様の肌を傷つけるというところまで追い求める。やがて木屑がすっかり取り払われ、仏様の形があらわれる。私たちはそのお姿を

生かされている存在

京都府宇治市 小川 照典

お迎えする。それが仏像彫刻というものである」今は亡き大仏師・松久朋琳先生のお言葉ですが、松久先生が提唱された一人一仏運動の輪は全国に広がりつつあります。

仏像に向かう時、心が澄んでいないと刀を持てません。心は落ち着いていないとお顔は怖くて彫れません。これまで、比叡山無動寺の不動明王像、枚方市宮称寺の阿弥陀如来像、神戸市常念寺の正観音像、亀岡市浄光寺の蓮如聖人像、薬師寺の薬師如来像、養仙寺の達磨大師像を、それぞれのお寺においてお祭りしていただいています。

対峙している私と、五葉山を介して自分自身と向き合っている方々の姿が重なります。「五葉山の魅力」リレーエッセイから、豊かな自然に抱かれていることによって、見えないものの中からも尊いものを感じとっている様子が手に取るようにします。

その時、ふと不動明王の声が聞こえたような気がしました。「人の仕合をせよ、健康に気を付け、社会のために働くように」。自分自身で彫った仏像が慈しみのある温かい眼で見てくださっているのです。「自分なりに一生懸命人の仕合をせよ」と。その場で私にそう誓ったのです。

【執筆者プロフィール】一九二八年生まれ、京都府宇治市在住。仏師。京都市役所退職後、古寺巡礼の祈り仏像と出会う。仏像を宗教美術展に出展し、各地の寺にも寄進。皇室の御寺泉涌寺を守る会員。

自作の仏像と筆者。「戦後間もない食糧難の時、亡き父が無住寺のために総代を務めていた関係で乳の出ない女性のために、農作業を中断して懸命に祈っていた姿が今も頭から離れない」

「仏を彫るということ」は、木肌の薄皮一枚一枚を剥いでゆき、これ以上刀を入れたら、仏様の肌を傷つけるというところまで追い求める。やがて木屑がすっかり取り払われ、仏様の形があらわれる。私たちはそのお姿を

ません。心が落ち着いていないとお顔は怖くて彫れません。これまで、比叡山無動寺の不動明王像、枚方市宮称寺の阿弥陀如来像、神戸市常念寺の正観音像、亀岡市浄光寺の蓮如聖人像、薬師寺の薬師如来像、養仙寺の達磨大師像を、それぞれのお寺においてお祭りしていただいています。

平成九年四月、比叡山無動寺の不動明王と十年ぶりに再会した折、初めて仏像を意識した時のこと、仏像が惹きつける内なる力、立ちすくませるほどの度量に魅了された日のことを思い浮かべて

仏像と五葉山——双方に相通することは、向き合うことを重ねていくことによって培われる内面の成熟です。そのことは感性や思考力を研ぎすまし、温かみのある人間性を育んでいるように思えるのです。

私は、自分に二つのことを言い聞かせ、心がけています。一つは、人の話を聞いて歩むことで

す。まわりの人の声に十分耳を傾けることで、本当の自分を見つめられると思うのです。もう一つは、感謝の気持ちをもつことです。もたないこと、ありがたう」といっても言えるようにすることで。生かされていることに感謝し、人の仕合をせよのために祈れる自分をつくりたいと思うのです。

リレーエッセイ

